

モニタリング項目 No. 15 評価シート案 (エゾシカ・ヒグマ WG)

(評価者：エゾシカ・ヒグマWG)

モニタリング項目	No. 15 ヒグマによる人為的活動への被害状況		
モニタリング実施主体	環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	ヒグマによる被害や危険事例、人間側の問題行動、施設の開閉状況をアンケートや通報、ヒグマ対策業務等を通じて情報収集。		
評価指標	ヒグマによる人身被害の発生件数、危険事例の発生状況、人間側の問題行動の状況、施設の開閉状況、ヒグマの有害捕獲数、ヒグマによる農林水産業被害状況。		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマによる人身被害を起こさないこと ・人間側の問題行動に起因する危険事例及び漁業活動に関係する危険事例の発生を、5年間で計12件以下の水準に抑えること ・斜里町における農業被害額及び被害面積を2020年度までに2016年度比で1割削減させること 		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 悪化
	<p>【人身被害の発生件数（2012～2019年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012～2016年は人身被害なし、2017年と2019年に斜里町において人身被害が2件発生した。 <p>【斜里町・羅臼町・標津町で発生した危険事例（2017～2019年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの問題行動による危険事例が計54件発生した。 ・利用者の問題行動に起因する危険事例は計30件発生した。 ・地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は計32件発生した。 ・漁業活動に関係する危険事例は計8件発生した。 ・2012～2016年、3町での危険事例は105件。 <p>【斜里町・羅臼町・標津町でのヒグマ有害捕獲頭数（2017～2019年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間で合計97頭（うちメス37頭）が捕獲された。 <p>【施設の開閉状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知床五湖園地については、近年地上遊歩道でのヒグマとの遭遇が増加傾向にあるが、ツアー中止回数は減少傾向にあった。 ・フレペの滝遊歩道については、2009年以降で2015年が最も閉鎖回数が多かった。その後は2015年の半数程度で推移。 <p>【農林水産業被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜里町における農業被害額は、2006年以降で2010年が最も多く、その後は減少傾向。 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・遺産地域内で人身被害の発生を抑制し、危険事例の発生件数を減らすため、利用者に対する働きかけ（普及啓発等）を強化している。 ・ヒグマによる人身被害が発生した場合の対処マニュアルを作成している。 		

● No.15 ヒグマによる人為的活動への被害状況

1. モニタリングの目的

ヒグマ出没状況、被害発生状況等を継続的にモニタリングすることにより、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用等との両立が図れているのかを把握する。

2. モニタリングの手法

ヒグマによる被害や危険事例、人間側の問題行動、施設の開閉状況をアンケートや通報、ヒグマ対策業務等を通じて情報収集。

3. これまでの結果

【ヒグマによる人身被害】

- ・2017（平成 29）年度から 2019（令和元）年度にかけて、斜里町でヒグマによる人身被害が 2 件発生した（表 1）。なお、羅臼町および標津町においてはヒグマによる人身被害は発生しなかった。

表 1. 斜里町 ヒグマによる人身被害の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	10 月 9 日	3	3	朱円	ヒグマの有害駆除中のハンターが、右顔面を叩かれ、左太ももをかまれた。命に別状はなかった。
2019 年度	4 月 16 日	3	3	峰浜	ヒグマ対策技術者育成のために捕獲に従事している猟友会のハンター1 名が、現場の下見中に単独亜成獣のヒグマに襲われた。ハンターは当該ヒグマをその場で捕獲、自力で救助を要請した。

【ヒグマの問題行動による危険事例】

- ・2017（平成 29）年度から 2019（令和元）年度にかけて、ヒグマの問題行動による危険事例は計 54 件（斜里町 21 件、羅臼町 20 件、標津町 13 件）発生した（表 2, 3, 4）。

表 2. 斜里町 ヒグマによる危険事例の詳細

	日付	ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	5 月 5 日	特	1+	岩尾別	車に接近するヒグマが出没。
	6 月 29 日	2	1	真鯉	沿岸にて北海シマエビ漁中の漁師が、ヒグマに追いかける。
	7 月 29 日	特	1+	知床横断道路	ヒグマ（単独）が停車した車両に接近して齧る事例が発生。車両に傷痕はなし（触れただけかもしれない）。
	8 月 24 日	1	2	蛸岩	海上の定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。
	11 月 2 日 ～3 日	2	2	岩尾別	ふ化場敷地にヒグマが侵入し、畜養池の魚を食害。結果、駆除となった。
	11 月 15 日	2	1+	岩尾別	倉庫に手をかけて興味を示すような行動をとるヒグマの目撃情報。
2018 年度	5 月 13 日	特定	1	道道幌別	0 歳 1 頭連れ親子が目撃され、母グマが車両に近付く。
	6 月 30 日	特定	1+	岩尾別	生ゴミの保管に使用している物置を気にし、周りをしつこく徘徊する単独ヒグマが目撃される。
	8 月 27 日	1	2	蛸岩	ヒグマが海上の定置網に羅網する事例が発生。救助することが困難なため、駆除となった。
	8 月 31 日	2	2	フンベ川河口	ヒグマが釣り人に走って接近し、逃げた釣り人が放置した魚を持ち去る。
	9 月 8 日	特定	1	カムイワッカ	停車中の有人車両にヒグマが 2～3m にまで接近したという目撃情報。
	9 月 12 日	2	1	ウトロ西	釣りをしている男性がヒグマに背後から接近され、警察に助けを求める。
	9 月 30 日	2	1+	ウトロ西	海岸で釣りをしている男性がヒグマに 5m にまで接近された。

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2018 年度	10 月 5 日	特定	1	国道幌別	走行中の車に走り寄ってくるヒグマが確認される。
	11 月 3 日	特定	2	道道幌別	1 頭連れ親子グマが車両にブラフチャージする。
	11 月 8 日	2	1	国立公園内森林	ヒグマが人に接近する事例が発生。
2019 年度	4 月 30 日	2	3	羅臼岳登山道	登山道にてヒグマに付きまといわれ、クマスプレーで撃退する事例が発生。注意喚起看板を設置。その後、付きまとい事例は発生しなかった。
	7 月 3 日	特定	1	国道幌別	ヒグマが道路上に出没。車両に対して 5m まで意図的に寄ってくるヒグマが目撃される。
	7 月 24 日	1	2	蛸岩	海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。
	3 月 29 日	2	3	国立公園内森林	国立公園内を散策中の利用者がヒグマに荷物を奪われそうになる事例が発生。ヒグマは荷物を一旦啜えたが、放して去ったとのこと。
	3 月 31 日	特定	3	フレペの滝遊歩道	フレペの滝遊歩道散策中に利用者がヒグマと遭遇。引き返そうとするとヒグマが後を追って 3~4m まで接近してくる事例が発生。

表 3. 羅臼町 ヒグマの問題行動による危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	5 月 28 日 ~29 日	2	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された（おそらく臭いのため）。昨年にも同様の被害があり、その他、屋外での作業中に近距離まで接近して来るヒグマが出没。現れるのは白い毛が特徴的な個体がほとんどのため、トイレを壊した加害個体も同一のヒグマと判断され有害捕獲された。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	6 月 6 日	特定	1	相泊	土砂崩れの復旧工事現場にヒグマが出没。作業中の現場に接近したため工事を中断して作業員を退避させた後に追い払いを実施した。
	6 月 15 日	4	1+	岬町	漁業者が屋外で作業している日中、海岸の住宅地にヒグマが出没。既に追い払いを受けているにもかかわらず、再度出没する行動から有害捕獲となった。
	6 月 16 日	4	2	海岸町	夜間、住宅の裏庭にヒグマが侵入。コンポストを荒らし逃走。その後、付近の道路山側斜面にるところを発見したため追い払いを実施した。
	6 月 27 日	特定	1+	知床横断道路	観光客の車両とヒグマが近距離遭遇。車は道にヒグマがいたため一時停車した。ヒグマは車両を気にすることなく 2~3m の距離まで接近してきた。
	7 月 9 日	4	1+	海岸町	ヒグマ出没対応中に居合わせた観光客と山側から住宅地に侵入してきたヒグマが数十 m の距離で遭遇。観光客は車両に退避。
	8 月 17 日	2	1	羅臼岳登山道	屏風岩付近で登山者がヒグマと遭遇。ヒグマは藪内にいたが、気付いた時には後方 1m 程の近距離にいた。威嚇行動は無くその後ヒグマは離れて行った。その他、環境省職員がスズラン峠付近で距離 5m 程でヒグマと近距離遭遇した。ヒグマは木に登って唸っていた。環境省職員は下山した一方で、そのままヒグマの横を通過した登山者もいた。
	8 月 22 日	3	1+	北浜	土砂崩れの復旧工事現場で工事作業中にもかかわらず近距離に接近を繰り返すヒグマが有害捕獲となった。
	10 月 3 日	4	1+	岬町	モセカルベツ川河口に出没したヒグマが海岸を市街地方向に移動を続け、オッカバケ漁港に侵入しようとしたため有害捕獲となった。港内の釣り人は車両に退避。

	日付	ゾーン	行動段階	場所	内容
2018 年度	6 月 20 日	4	2	海岸町	民家裏の魚干し小屋がヒグマによって破壊された。小屋にはまだ魚は干されておらず、人の鼻では魚の匂いは感じられなかった。
	6 月 27 日 ～29 日	2	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。漁業者が爆竹等で何度も追い払いを行ったが、行動改善しなかったとのこと。人為物に執着し、人を気にしていない行動から有害捕獲となった。
	7 月 18 日	2	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出沒せず捕獲には至らなかった。
	7 月 23 日	3	2	峯浜町	ペットとして飼育されていたヤギ 1 頭がヒグマによって食害された。加害個体は捕獲対象と判断されたが、10 月末時点で捕獲には至っていない。
	8 月 1 日	4	2	海岸町	飼い犬 2 頭がヒグマによって食害された。加害個体は捕獲対象と判断された。
	8 月 3 日	4	2	春日町	サケマスふ化場で、稚魚用の飼料がヒグマによって食害される被害が発生。飼料は屋内にあったが、ヒグマは施錠されていない扉から侵入したもよう。数日後には電気柵が設置され、被害は 1 回のみであった。
	8 月 6 日	2	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された。2016、2017 年にも同様の被害があり、2017 年には 1 頭のヒグマを有害捕獲している。今年度はすでに漁業活動は終了しており、番屋も無人であるため対応は行わなかった。なお来年度以降、漁業者自身で番屋周辺に電気柵を設置することとなった。
	8 月 16 日	4	3	礼文町	住宅街に 21 時過ぎにヒグマが出沒。ヒグマは走行中の車両に向かってブラフチャージを行い、車両と接触。車両は、助手席側のドアが大きくへこんでいた。夜間であったため、追い払いを実施した。

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2018 年度	8 月 28 ～30 日	3	2	幌萌町	清掃センター敷地内に置かれている冷蔵庫から、ヒグマによってエゾシカの死体が捕られた。28 日の被害発覚後、捕獲檻を設置したが加害個体の捕獲には至らなかった。30 日の被害発覚後、電気柵を設置したところそれ以上の被害は発生しなかった。
2019 年度	7 月 11 日	4	2	海岸町	ヒグマが飼い犬 1 頭を食害。捕獲檻が設置されたが、ヒグマの捕獲には至らなかった。DNA 鑑定によって加害個体は昨年度も飼い犬を食害したヒグマであったことが判明 (ID : RT オス)。
	9 月 4 日	4	2	麻布町	ヒグマが運送会社の残渣運搬用トラックを囲んでいた電気柵を破壊。

表 4. 標津町 ヒグマの問題行動による危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	6 月 29 日	3	1+	崎無異地区	民宿横で発生した亜成獣駆除対応。オオハナウドについた個体が民宿周辺に居つく。緩急帯を整備するも対応中に度重なり出沒したため駆除。
	7 月 5 日	3	2	忠類地区	例年デントコーン畑の被害が発生している牧場にて、処理前の廃乳にクマがついた。夜間のみの出沒のため捕獲檻で駆除。
	7 月 21 日	3	2	茶志骨地区	敷地内に度重なり出沒。廃乳にクマがつき、捕獲檻を設置するも、捕獲できず。
	7 月 23 日	3	1	忠類地区	市街地パークゴルフ場で近隣住民とニアミス。
	7 月 24 日	3	2	古多糠地区	牧場敷地内に度重なり出沒。廃乳にクマがつき、夜間のみの出沒のため捕獲檻で駆除。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	8 月 13 日 から順次	2	1+	金山地区	親子連れ（仔 2 頭連れ）が国道脇でキツリフネを採食しに出没し続けた事例。車や人間にまったく警戒せず、追い払いの結果、特定の車両に警戒するようになるも 11 月に入ってもなお付近に出没。観光客？等による餌付け行為の疑いもあるが確認できず。駆除対象であるが、未だ捕獲できず。
	9 月 21 日	3	2	古多糠地区	ヒグマ被害発生中のデントコーン畑付近の別の農家が、放牧中の牛を探しに行ったところ、デントコーン畑についていたと思われる親子連れと遭遇。農家は畑に逃げて被害なし。
2018 年度	7 月 30 日	3	1	古多糠地区	牧場主が牧場入口でヒグマ親子連れと遭遇。ヒグマは人を気にせず向かってきたため、トラクターで追払った。
	8 月 28 日	3	1+	忠類地区	忠類パークゴルフ場から市街地にかけてヒグマが横断。緊急駆除を実施。
2019 年度	5 月 12 日 ～13 日	3	1+	古多糠地区	複数の牧場で亜成獣が目撃される。同一個体と思われる亜成獣が住宅前に出没したことから有害捕獲。
	6 月下旬 ～7 月下旬	4	1+	市街中心部 隣接地区	市街地の端に位置するサーモンパークやサーモン橋、防災道路において亜成獣が頻繁に目撃された。その後、同個体と思われる亜成獣がより市街中心部に近いサーモン科学館の棟横などに出没するようになったため、箱わなにより捕獲を試みたが捕獲に至らず。
	8 月上旬	3	2	川北地区	川北地区の北部に位置する個人所有の家庭菜園で作られていたスイートコーンが食害される。住宅も近いことから箱わなを設置。8 月 31 日に加害個体と思われるメス 1 頭を捕獲した。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
	9月8日	3	2	薫別地区	薫別サケマスふ化場の水路で親魚がヒグマの食害を受けた。電気柵や自動撮影カメラを設置。また定期的なパトロールも実施した。ふ化場には複数の個体が誘引されていることが判明。

【利用者の問題行動に起因する危険事例】

・2017（平成 29）年度から 2019（令和元）年度にかけて、利用者の問題行動に起因する危険事例は計 30 件（斜里町 28 件、羅臼町 2 件）発生した（表 5, 6）。なお、標津町においては利用者の問題行動に起因する危険事例は発生しなかった。

表 5. 斜里町 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

	日付	ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	9 月 20 日	2	1	幌別川河口	ヒグマに驚いた釣り人が荷物等を置いたまま走って逃げる状況発生。
	9 月 22 日	2	1	幌別川河口	ヒグマが出没し、釣り人が走って逃げる事例が発生。
	10 月 13 日	2	2	幌別川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
	10 月 14 日	特定	2	幌別川河口	釣り人の残置していた魚がヒグマに奪われた。
2018 年度	5 月 14 日	特定	1	国道幌別	1 歳 2 頭連れ親子グマが出没したため、利用者が車から降車して撮影しようとしたところ、ブラフチャージを受けた。
	6 月 9 日	特定	1+	町道岩尾別	親子グマが出没中、カメラマンが接近撮影し、親グマが木の下、コグマが木に登るといった状況が発生した。個
	6 月 16 日	特定	1	道道幌別	0 歳 1 頭連れ親子が出没し渋滞が発生。マナーの悪いカメラマンがクマスプレーとカメラを構えヒグマを追いかけまわす様子が目撃される。
	6 月 25 日	特定	1	知床横断道路	1 歳 2 頭連れの母グマが環境省 AR にブラフチャージする。
	6 月 30 日	特定	1	国道幌別	1 歳 1 頭連れ親子が出没。ヒグマ観察のための車両とバイクにより親子が分断される状況が発生。
	7 月 10 日	特定	1	町道岩尾別	0 歳 1 頭連れ親子に 3m ほどまで接近し撮影を行うカメラマンが目撃される。
	9 月 15 日	特定	1	道道岩尾別	観光客が降車してヒグマに接近しているという目撃情報。
	10 月 29 日	特定	1	カムイワッカ	道路上で撮影しているカメラマンにより、親子グマが分断される状況が発生。

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2019 年度	5 月 4 日	特定	1+	道道岩尾別	道道脇にヒグマが出没。道路脇で滞留するヒグマを撮影するために、車両 5 台ほどが停車、5~10 人が降車し撮影する事例が発生。
	5 月 4 日	特定	1	町道岩尾別	道路法面にヒグマが出没。道路脇に椅子をおいてヒグマを観察する人がいると情報が寄せられる。車両 10 台ほどが停車し、渋滞が発生していた。
	5 月 5 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。観光客 2 名が降車し撮影する事例が発生。
	5 月 5 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。10 人が降車し、道路から撮影する事例が発生。
	5 月 5 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇に出没したヒグマに利用者が 1m ほどまで接近し撮影する事例が発生。
	5 月 12 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇にて 1 歳ヒグマが出没し、撮影しようとヒグマを追いかける利用者がいたとの情報が寄せられる。
	5 月 12 日	特定	1+	町道岩尾別	ヒグマが道路脇に出没。車 3 台が停車し、1 名が近距離で降車していたとの情報が寄せられる。
	5 月 12 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。車 2 台が駐車し、1 名が約 10m の距離で観察する事例が発生。
	5 月 12 日	特定	1+	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。複数人が降車し、ヒグマからの距離約 10m の位置で撮影する事例が発生。
	8 月 21 日	特定	1	国道幌別	道路法面にいる 2 頭連れ親子ヒグマを観察するために、渋滞が発生。利用者が降車し、10m ほどの距離でヒグマを観察する事例が発生。
	8 月 30 日	特定	1	町道岩尾別	道路沿いでヒグマを追いかけてまわし、撮影する利用者が確認される。
	8 月 30 日	特定	1	国道幌別	2 頭連れ親子ヒグマを観察するために、渋滞が発生。母グマが真横に停めた車両に対しブラフチャージをする事例が発生。
	9 月 8 日	特定	1	岩尾別川	魚を捕食するヒグマに対し、徒歩で接近し撮影する複数の利用者が確認される。

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2019 年度	9 月 11 日	特定	1	岩尾別川	ヒグマが出没している河川の橋の上に大多数の人が集まり、混乱状態になる事例が発生。交通事故の危険性があった。
	9 月 15 日	特定	1	岩尾別川	河川に出没したヒグマを撮影するため、利用者が 10 名以上滞留、橋の上に 30 台以上の車が停車し、渋滞発生。近距離でヒグマを撮影する利用者も確認される。
	9 月 20 日	特定	1	岩尾別川	河川に出没したヒグマを、川へ降りて近距離で撮影する利用者が確認される。

表 6. 羅臼町 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	無し				
2018 年度	9 月 2 日	2	2	クズレハマ川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
	9 月 3 日	特定	2	オショロコツ川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
2019 年度	無し				

【地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例】

- ・2017（平成 29）年度から 2019（令和元）年度にかけて、地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は計 32 件（斜里町 6 件、羅臼町 25 件、標津町 1 件）発生した（表 7, 8, 9）。

表 7. 斜里町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付	ゾーン	行動段階	場所	内容	
2017 年度	5 月 8 日	特定	2	知床自然センター	廃油置き場の油がヒグマに舐められる事例が発生。
	10 月 28 日	4	2	ウトロ東	住宅の干し魚がヒグマに奪われた。
	11 月 7 日	4	2	ウトロ西	住宅の干し魚がヒグマに奪われた。
2018 年度	5 月 27 日	特定	2	岩尾別	0 歳 1 頭連れの母グマが物置に放置された生ゴミを食べる。これをきっかけに母グマは捕殺対象となる。
	6 月 12 日	特定	1	岩尾別	0 歳 1 頭連れ親子を目撃し、追い払い時の判断を誤り、親子を一時的に分断。母グマが対策員にブラフチャージする状況が発生。
	8 月中旬	3	2	峰浜	農地に大量の食品関係系ゴミが投棄され、ヒグマが餌付く状況が発生。
2019 年度	無し。				

表 8. 羅臼町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付	ゾーン	行動段階	場所	内容	
2017 年度	9 月 6 日 ～ 10 月 13 日	3	2	幌萌町	水産加工場の残渣に誘引されたヒグマが周辺民家の隣接地に出没。残渣を荒らした明確な物証はなかったが、残渣置き場の状況から食害したと判断され、警戒していたところ、10 月 13 日に狩猟により当該個体が捕獲された。
	10 月 29 日	4	2	海岸町	夜間に漁業番屋の倉庫の扉がヒグマに破壊され内部に侵入、倉庫内に干してあった魚がヒグマに奪われた。
	11 月 2 日	4	2	共栄町	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	11 月 3 日	4	2	共栄町	外に干してある魚を奪おうとするヒグマが目撃される。
	11 月 5 日	4	2	船見町	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。
	11 月 12 日	特定	2	北浜	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。
	11 月 13 日	4	2	岬町	日中に住宅地の海岸でヒグマが目撃される。ヒグマは住宅に干してあった魚を奪っていたため、捕獲された。
2018 年度	7 月 14 日	4	2	岬町	住宅地の山側斜面で、広範囲にわたってヒグマ痕跡を確認。海岸側でヒグマによって食べられたと推測される新巻鮭を発見した。
	8 月 16 日	4	3	礼文町	住宅地で、19 時過ぎに生ごみを入れているゴミ箱がヒグマによって破壊される被害が発生した。当該個体の発見には至らず、追い払いはできなかった。
	8 月 17 日	4	2	麻布町	運輸会社のトラックが壊されているのが発見され、痕跡からヒグマによる被害と断定された。トラックは水産加工残渣の運搬にも使用されていたため、匂いに誘引されたものと推測された。12～16 日の間は無人であったため、正確な被害日は不明。
	8 月 12～18 日	4	2	知昭町	水産加工場の排水溝がヒグマによって荒らされていた。被害発覚は 17 日朝。加工場は 12～16 日の間は無人であったため、正確な被害日は不明。
	8 月 19 日	4	2	麻布町	水産加工場の加工残渣にヒグマが執着する事例が発生。
	8 月 22 日	4	2	麻布町	水産加工場の加工残渣にヒグマが執着する事例が連続で発生。被害者からの通報が遅かったため、対応が遅れ連日の被害となった。当該個体が同加工場に出没したところを有害捕獲した。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2018 年度	9 月 21 日	3	2	峯浜町	酪農家が沢に投棄していた廃棄乳にヒグマが執着。
	11 月 2 日	4	2	岬町	夜間、番屋の軒先に干してあった魚がヒグマに奪われ、番屋の窓ガラスが破壊される被害が発生。捕獲檻によって、加害個体と推測されるヒグマを有害捕獲した。
	11 月 3 日	4	2	岬町	日中の住宅地に干してある魚がヒグマに奪われていたため、有害捕獲された。
2019 年度	7 月 19 日	4	2	春日町	水産加工場で物置の扉が壊され、中に保管していた加工残渣をヒグマに食べられた。
	7 月 27 日	3	2	峯浜町	ヒグマに飼い犬を食べられた（2019 年度 2 件目）。
	8 月 3 日	4	2	春日町	ヒグマに飼い犬を食べられた（2019 年度 3 件目）。
	8 月 8 日	4	2	麻布町	運送会社で水産加工残渣運搬用のトラックが 2 日連続でヒグマによって破壊された。
	9 月 4 日	4	2	八木浜町	八木浜町の住宅で 1 階部分カーポート内に置いていた生ごみがヒグマに食べられた。ヒグマは逃走し、捕獲には至らなかった。
	9 月 5 日	4	2	知昭町	知昭町で軽トラックの荷台に乗るヒグマが目撃された。前日の夜間には、同トラックの荷台に積んでいた魚がヒグマに食べられていた。
	9 月 10 日	4	2	岬町	岬町で住宅前に置いてあった生ごみが入ったポリバケツを壊そうとしているヒグマが目撃された。ヒグマは住民によって追い払われた。
	9 月 30 日	4	1+	共栄町	共栄町で住宅裏の海側を歩いているヒグマが目撃された。目撃地点で不法投棄生ごみが確認された。
	10 月 25 日	4	2	岬町	海岸を移動するヒグマが目撃された。ヒグマは投棄された生ごみを食べていたためその場で捕獲した。

表 9. 標津町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	無し				
2018 年度	8 月 22 日	3	2	金山地区	親子連れが出没。付近にコーヒーの空き缶が大量に放置され、誘因された痕跡を確認。
2019 年度	無し				

【漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例】

- ・2017（平成 29）年度から 2019（令和元）年度にかけて、漁業活動に関する危険事例は計 8 件（斜里町 4 件、羅臼町 4 件）発生した（表 10, 11）。なお、標津町においては漁業活動に関する危険事例は発生しなかった。

表 10. 斜里町 漁業活動に関する危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	6 月 29 日	2	1	真鯉	沿岸でシマエビ漁中の猟師がヒグマに追いかけられた。
	8 月 24 日	1	2	蛸岩	マスの定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。
2018 年度	8 月 27 日	1	2	オキッチウシ	ヒグマがマスの定置網に羅網。保護することができなかつたため、駆除となった。
2019 年度	7 月 24 日	1	2	蛸岩	海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。

表 11. 羅臼町 漁業活動に関する危険事例の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017 年度	5 月 28 日	2	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された（おそらく臭いのため）。昨年にも同様の被害があり、その他、屋外での作業中に近距離まで接近して来るヒグマが出没。現れるのは白い毛が特徴的な個体がほとんどのため、トイレを壊した加害個体も同一のヒグマと判断され有害捕獲された。
2018 年度	7 月 18 日	2	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出没せず捕獲には至らなかった。

20201015 2020 年度第 1 回 知床世界自然遺産地域科学委員会
適正利用・エコツーリズムWG

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2018 年度	8 月 6 日	2	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された。2016、2017 年にも同様の被害があり、2017 年には 1 頭のヒグマを有害捕獲している。今年度はすでに漁業活動は終了しており、番屋も無人であるため対応は行わなかった。なお来年度以降、漁業者自身で番屋周辺に電気柵を設置することとなった。
	8 月 6 日	特定	1	昆布浜	番屋の近くにヒグマが出没。作業員が走って逃げた際に転んで足を負傷した。
2019 年度	無し。				

【施設の開閉状況】

知床五湖

- ・地上歩道におけるヒグマ遭遇回数は2019（令和元）年度が最多の186回、次いで2018（令和元）年度が119件であった（図1）。
- ・ヒグマ活動期のツアー中止回数は2012（平成24）年度が最多の39件、次いで2018（令和元）年度および2019（令和2）年度が25件であった（図2）。
- ・最もヒグマ出没が少なく、地上遊歩道の安定供用が可能だった年は2013（平成25）年度であった。

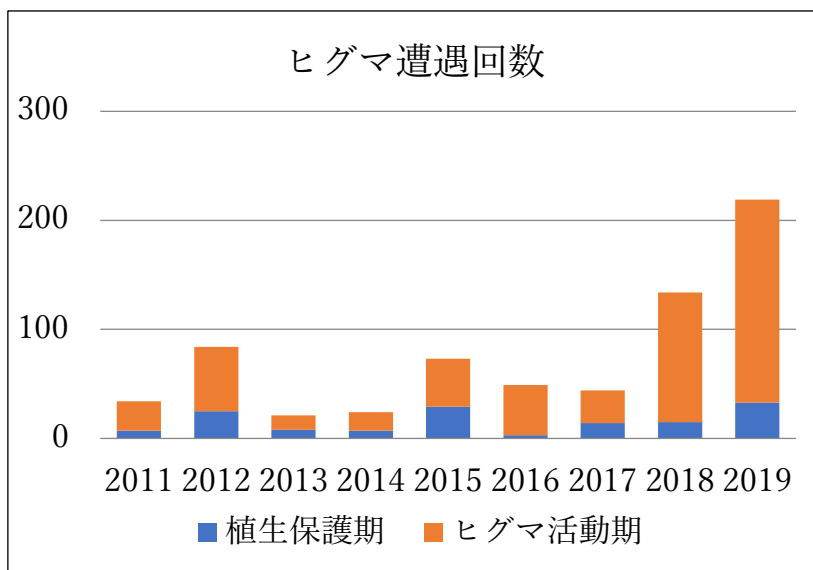


図1. 知床五湖地上遊歩道におけるヒグマ遭遇回数

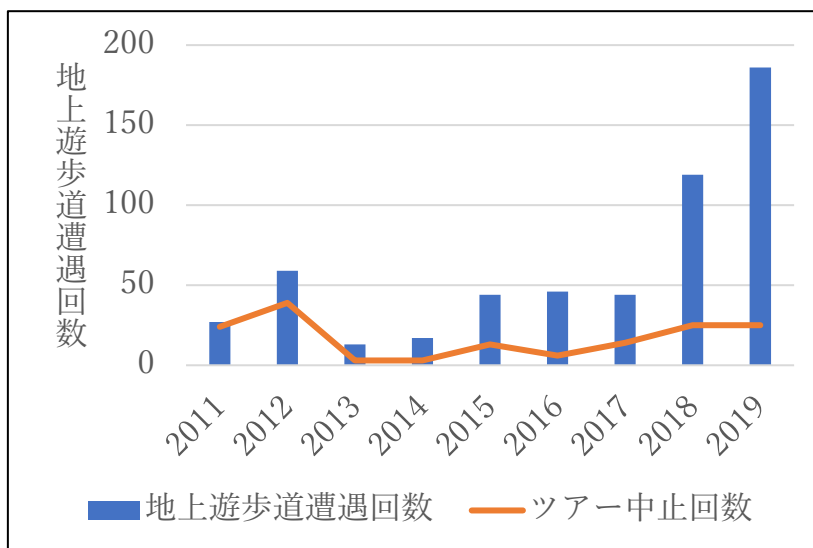


図2. 知床五湖地上遊歩道遭遇回数とツアー中止回数

フレペの滝遊歩道

- ・2015 年度以降、ヒグマの目撃件数は減少傾向にあった（図 3）。
- ・ヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数は、2015（平成 27）年度が最も多かった。

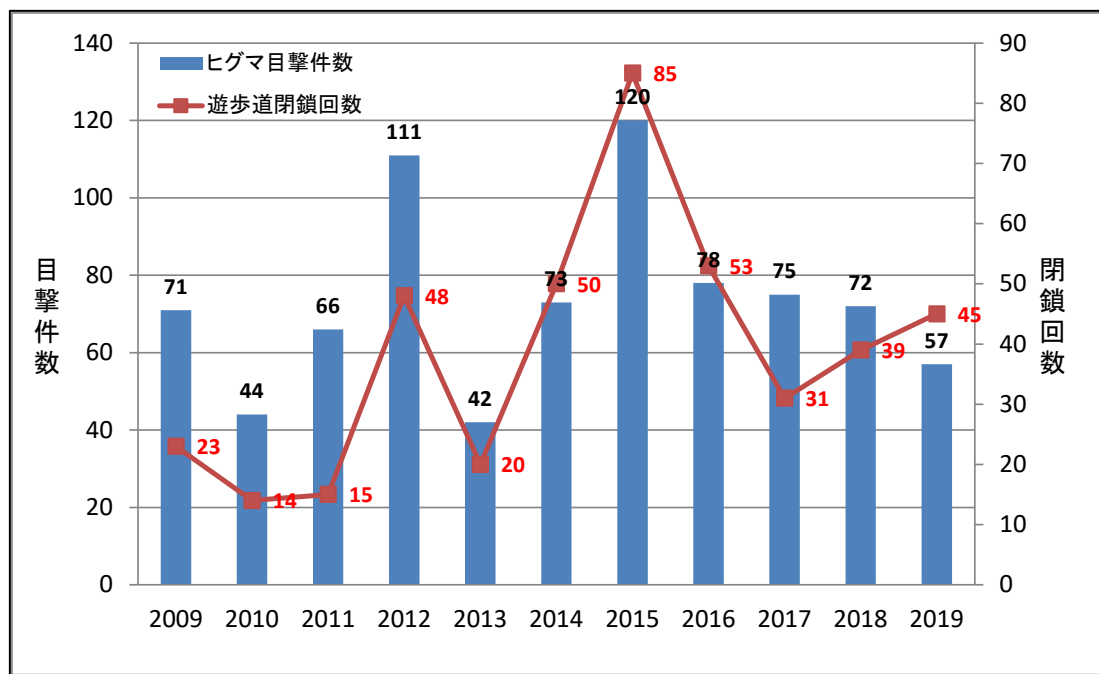


図 3. フレペの滝遊歩道におけるヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数

【ヒグマ有害捕獲頭数】

- ・2017（平成 29）年から 2019（令和元）年にかけて、斜里町・羅臼町・標津町で有害捕獲されたヒグマは計 97 頭であった（表 12）。そのうち、有害捕獲されたメスヒグマは 37 頭であった。

表 12. 斜里町・羅臼町・標津町で有害捕獲されたヒグマの年齢・性別ごとの捕獲頭数一覧

年度・年齢/町・性別		メス			オス		
		斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
2017年	0歳	0	0	0	0	0	0
	1歳	1	0	1	5	1	0
	2歳	1	0	0	1	0	0
	3歳以上	5	3	0	4	5	2
	小計	7	3	1	10	6	2
2018年	0歳	0	3	0	0	1	0
	1歳	0	0	0	1	1	0
	2歳	0	0	0	1	2	0
	3歳以上	6	3	0	3	2	1
	小計	6	6	0	5	6	1
2019年	0歳	3	0	0	2	0	0
	1歳	1	0	0	5	3	0
	2歳	1	0	0	2	2	1
	3歳以上	5	3	1	9	5	1
	小計	10	3	1	18	10	2
合計		37			60		

【農林水産業被害】

- ・斜里町における農業被害額は 2006 年以降で 2010 年が最も多く、その後は減少傾向（図 13）。
- ・羅臼町、標津町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。

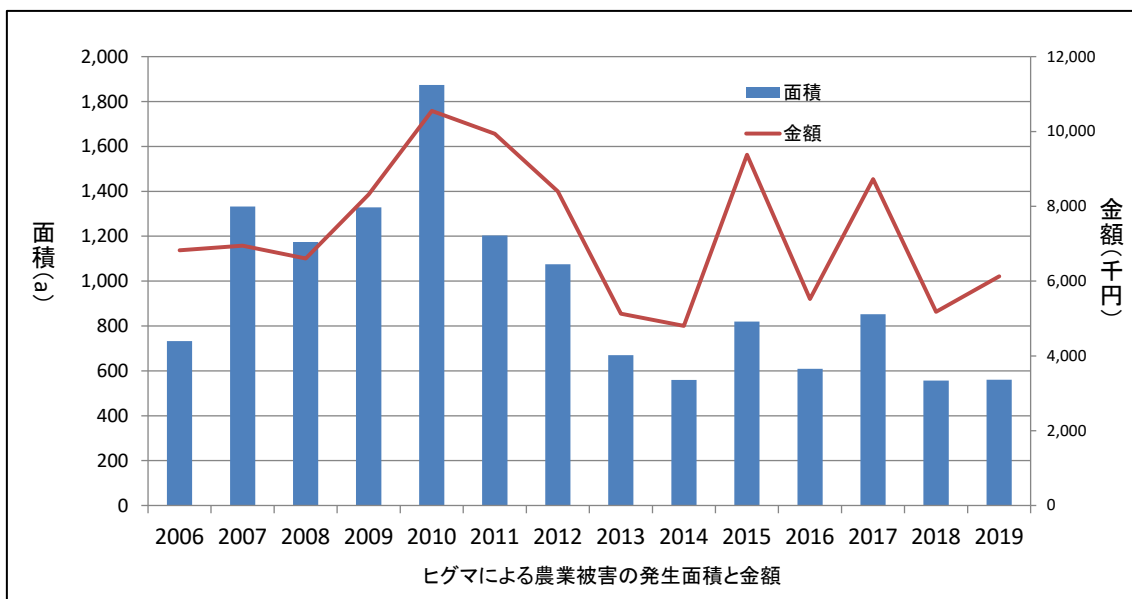


図 13. 斜里町で発生した年毎の農業被害および被害面積